

新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。例会の開催なども危ぶまれる状況です。暖冬のため、早くも花粉が飛び始めましたがマスク不足も厳しい状況です。各地で初蝶も報告され、春が待ち遠しい季節になりました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。(総務幹事：田中和夫)

【2月例会】

日時：令和二年2月18日(火)(第3火曜日) 午後6:30~8:30

場所：吉祥寺、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室

講演：石田孝英氏(国立環境研究所)、および 佐藤和恭氏(会員)

1. 石田孝英氏(国立環境研究所)：「名古屋議定書(=ABS)の分かりにくさを理解する」

概要(石田さんのコメント)：名古屋議定書・ABSはわかりにくいことで有名です。その理由は、1)略語が多すぎる、2)そもそもなぜABSを行うのかわからない、3)何をすればいいのかわからない、4)しないと何が起きるのかわからない、5)他にも似たようなルールがある、ことなどが考えられます。今回のセミナーでは、主に2~4についてお話しした後、皆さんからいただいた質問について議論したいと思います。

企画担当三橋からのコメント：

ABSはわかりにくいので私なりに補足してみます。Access and Benefit-Sharing (ABS)は、意識すると「遺伝資源の取得とその利用から得られる利益の原産国と取得者(国)の公正な配分」になると思います。この訳からわかるように、ABSの根幹精神の一つは、遺伝資源(昆虫を含む)から得られる利益を遺伝資源のある国とその海外の取得・利用者が公正に分ち合うということです。昆虫愛好家の活動に関しては、得られた昆虫についての論文や報文の形での発表も遺伝資源から得られた利益と見なされますので、共著で発表する等ということがその精神に沿うと理解されています。ですので、ABSは、随分以前からある各国の採集規制やワシントン条約、植物防疫関連等の規制とは別の概念・規制です。

ABSは「生物多様性条約」に基づいて出てきたもので、上記の理念を具体的にかつ実効性を高めるために取り決められたものです。

現在、

1. 生物多様性条約、ABSを規定した名古屋議定書の両者とも批准していない国
(アメリカなどわずか)
2. 生物多様性条約のみに批准している国(パプアニューギニア、ロシアなど)
3. 両者に批准している国(多数)に分かれますが、

1の国での採集と成果の発表は従来通りの対応でよいのですが、3の両者を批准している国の遺伝資源の取得・利用(発表)には共同研究による共著にするなど特に十分な注意が必要になってきました。2の国の資源に対しても利益分配の精神を尊重することが求められています。なお、3の国でも、採集の段階では規制のない国(日本、イギリスなど)もあります。

2. 佐藤和恭氏「50年分のチョウ観察記録のデータベースづくりとトピックス」

概要(佐藤さんのコメント)：チョウを趣味として観察をはじめてから50年が経過し、これまで記録してきた50年分の各種データを表計算ソフトを活用して整理することをはじめました。その内容をご報告いたします。

また、整理が終わった中から、トピックスとしていくつか気になる種について、(タッパンルリシジミ、ウラギンヒョウモン、他)その内容をご報告いたします。

(企画担当幹事：三橋渡)

【今後の例会予定】 午後6:30～8:30

3月28日(土) 13～17時(第4土曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)
年度会員総会&記念講演

記念講演: 矢後勝也氏(東大総合研究博物館)

「チョウ類研究に関する最近の成果—分子系統、生物地理から保全まで—」

4月21日(火)(第3火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

5月12日(火)(第2火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

6月16日(火)(第3火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

7月14日(火)(第2火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

8月18日(火)(第3火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

【連絡事項】

1. 「会費納入」のお願い

グループ多摩虫は2020年3月から新年度に入ります。既に新年度会費をご納入頂いた会員も多くおられますが、まだの会員の方に会費納入について下記のとおり再度のご案内を致します。

納入期限は今月2月末までとなっておりますので、何とぞご協力の程よろしくお願ひ致します。

・会費 一般会員: 4,000円、 学生会員: 1,000円(高校生以下)

・送金先 ゆうちょ銀行振替口座

00180-0-67713 口座名: グループ多摩虫

他銀行から振込される場合の口座

金融機関: 9900<ユウチョ>、 店番: 019<ゼロイチキュー>

種目: 当座、 口座番号: 0067713、 口座名: グループ多摩虫

* 2月例会の会場でも、新年度会費の納入を会計担当幹事が直接お受けすることが出来ます。

また、会費の納入期限は2月末ですが、3月28日(土)に予定されている当会定期総会での会費の納入まで特別に対応させていただきます。(会計担当幹事: 藤塚・石川)

2. 『新着交換会誌の紹介』

下記の交換会誌、寄贈誌が届いていますので、2月の例会にて回覧いたします。

尚、本図書も貸し出し対象としますので、貸し出し希望の方はお申し出ください。

1. 京都大学蝶類研究会 SPINDA No.34
2. 百万石蝶談会 翔 No.250, 251
3. 神奈川昆虫談話会 神奈川虫報 No.200
4. 同上 花蝶風月 No.174
5. 千葉県昆虫談話会 房総の昆虫 No.65
6. 津軽昆虫同好会 Celastrina No.54
7. 静岡昆虫同好会 駿河の昆虫 No.267,268
8. 同上 ちゃつきりむし No.201, 202
9. 甲州昆虫同好会 月見草便り No.133,134
10. 埼玉昆虫談話会 寄せ蛾記 No.175,176
11. (有)むし社 月刊むし No.587,588 (寄贈)

(渉外担当幹事: 福田幸雄)

3. 『新入会員の連絡先』

築根照英 (ツクネ テルヒデ) : : E-Mail: teruchan25yakiton@yahoo.co.jp

住所 : 〒177-0054 東京都練馬区立野町 15-38-106

澤田 拓実 (サワタ タクミ) : 小学生 : E-Mail: sawatahouse@gmail.com

住所 : 〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘 1-2-1-306

赤羽 行 (アカバネ コウ) : 小学生 : E-Mail: asana913@yahoo.co.jp

住所 : 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 3-32-3 サンウッド代々木西参道 208

4. 『配信状況確認のお願い』

「月刊グループ多摩虫」を毎月第1週に配信します。この配信は多摩虫メーリングリストが会員の皆様に確実に配信されているかどうかの確認の意味もあります。もし本メールが届かなくなった場合は、貴殿へのML配信が正常に行われていない可能性がありますので、至急下記 IT 担当までその旨お知らせ下さい。早急に対処させていただきます。IT 幹事 HL mail: it_staff@tama64.info

【1月例会 概要】

1月21日(火)の例会はお疲れさまでした。31名の会員が出席し盛況でした。懇親会の「さかなや道場」には、講師、お二人も参加され講演内容から始まり次々と話は尽きませんでした。

講演に先立ち2019年度入会の川村篤史さんと2020年度入会予定の築根(ツクネ)照英さんに自己紹介を頂きました。

下記に講演の概要を講師お二人に書いて頂きましたので、ご覧ください。(企画幹事 宮内隆夫)

1. 青木 航太氏：「コンピュータービジョンによる蝶の種類の判別」と

「モンキアゲハとシロオビアゲハの異種間雑種」

青木さんは中学一年生で昨年入会されました。そして日本昆虫協会2019年度の「夏休み昆虫研究大賞 標準部門」で優秀賞を授かりました。また、会誌74号にも今回発表の異種間雑種についての論文を掲載予定です。例会での講演で「コンピュータービジョンによる蝶の種類の判別」も最先端技術を取り入れた研究で、まだ実用への道は長そうですが、まず第一ステップの色彩での判別の紹介で頼もしい限りです。(企画幹事：宮内)

「コンピュータービジョンによる蝶の種類の判別」

チョウの中には種類の判別が難しいものがあります。そこでコンピューターで画像認識を行い、チョウの種類を判別できないかと思いつくってみました。結果として似ているものは高い類似度になりました。しかし、まだまだ正確性にかけるので、今後、特徴点マッチングなど他の方法も使って見分けられるようにしていきたいと考えています。

「モンキアゲハとシロオビアゲハの異種間雑種」

雑種に興味を持ち、異種間雑種を人工で飼育し成長の様子について発表しました。実際に飼育してみると両種との差や似ているところがありました。卵から成虫まで親との違いをスライドを使って説明しました。4齢幼虫のあたりになると違いがはっきりしてきました。成虫は明らかに両種の特徴を見ることができて面白かったです。(青木航太)

2. 岡本 隆然氏：「趣味のコラボ、蝶・山野草・カメラ・登山・etc」

岡本さんは山野草愛好家としても長年ご活躍で、ご自宅で楽しむと共に各地に出かけられて、環境変化の心配もなされ、蝶の生息とも絡めて見て来られたとのことです。さくら草は根にしっかりと水分が必要で冠水も悪くは無さそうだと興味深いお話しもありました。(企画幹事：宮内)

「蝶と山野草の二つのフィールド」

蝶と山野草を二股かけた一年間をまとめてみました。地元の田島ヶ原を中心にした報告です。

さいたま市の田島ヶ原は蝶屋さんにも山野草愛好家の両方になじみ深い場所です。田島ヶ原では天然記念物のさくら草が激減し蝶層も単純化しています。何故、このような事態が引き起こされたのかを生態系の視点から考えました。乾燥化が植物と生物の両方にダメージを与えているのではと仮説を持っています。乾燥化は長野の池の平でも起きています。池が縮小し、蝶も減り、植物層も単純化しています。

昨年台風19号で久しぶりに田島ヶ原が全面的に冠水しました。私は今年さくら草は株数が増えると考えています。春の開花を楽しみに待っています。ミドリシジミの数はどうでしょうか。

(岡本隆然)

例会の風景



二次会の風景

